

知事と区市町村長との意見交換（利島村）

令和1年10月29日（火）

15時20分～15時40分

○**行政部長** それでは早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** この度の台風におきましては大変、生まれてこのかた経験したことがないという言葉が各地で、それぞれ島、最初の台風15号の時に伺った時も同じフレーズをあちこちで伺いました。今回も被害が生じたこと、心から御見舞いを申し上げたく存じます。

樫の倒木等の被害が特に顕著だということでございます。その状況については直接現地で村長からお伺いをしたところですが、19号では今度は一部損壊の建物が出てくるということでもございます。できる限り支援をしてまいりたいということも冒頭申し上げたく存じます。

それから今回はそれに加えて、都の長期戦略を描く際の利島の御意見を伺うという機会でございます。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○**行政部長** 前田村長、よろしくお願ひいたします。

○**利島村長** それでは要望をさせていただきます。私は利島村長の前田でございます。本日は要望と意見交換の機会をいただき、ありがとうございます。

まず要望の前に、今知事からも御言葉がございましたけれども、小池知事には先日、台風15号の際、被災見舞いにお出でいただきまして、ありがとうございます。村の皆さんも被害等の状況を共有いただき、喜んでおりましたので報告させていただきます。ありがとうございます。

それでは意見交換のテーマといたしまして、台風被害それからごみ焼却施設及び再エネ関係の3件についての意見を述べさせていただきます。

まず台風15号による暴風被害ですけれども、樫林での多数の倒木と貯水池の防水機能の破損があり、これらの2件についての支援のお願いであります。

まず樫林の倒木の影響は、樫苗の植林後、成長までに時間が掛かるため、今後30年以上に渡って樫油の生産量の減少が継続することが問題であります。そのための生産量の回復施策といたしまして、樫林更新に向けた苗木の育成、それから植林作業等のスピードアップ対策が求められているということになっております。

次に貯水池の保水機能の破壊につきましては、飲料水の安定的な供給維持に向けて防水シートの張替等、早急な漏水対策が必要になっております。以上、2件についての支援をお願いいたします。

次はごみ焼却施設の更新に関する支援のお願いでございます。課題といたしましては、施設の老朽化による多額の補修費、維持費に対する財政負担の増加等がございます。

その施策といたしまして、現在進めつつありますが、ごみの分別回収等によるごみの減量化の推進と共に、施設更新に向けた中型焼却炉等の導入と広域処理、これは現実には島

外搬出でございますけれども、広域処理の可能性の両面について、現在検討しているところでございます。

現在、利島においてごみ焼却の状況は、危機的な状況になりつつありますけれども、都の環境局の御協力、御支援により、計画作成中でありまして、引き続き強力な支援をお願いしたいという要望でございます。

次は100%の再エネ化で、200%の離島地域再生の提案に対する支援へのお願いでございます。この提案の趣旨は厳しい自然環境下にある小離島がエネルギー的にも自立し、持続可能な島づくり施策の一手段として、再生可能エネルギーを活用する方法を提案するものでございます。

その具体的な構成例を図で示します。この図は消費者に対するエネルギーの流れで示したものでございます。これは全体がゼロエミッションアイランド利島ということでございます。村の消費者全体がここにございます。

現在の状態と申しますのは、消費者に対して電力会社とか、燃料供給会社とのやり取りで、赤がお金の流れですけれども、こういった状態が、この左側の2つの関係でございます。

ここで申し上げたいのは、ここに小さなエネルギー供給者ということを考えまして、これ再エネ関係、エネルギー供給者を設けるという、単にそれだけの構成の違いを述べている絵でございます。

このゼロエミッションアイランド利島における消費者は従来の電力燃料供給者からも、また小さなエネルギー供給者からもエネルギーを得ることができると。その次には小さなエネルギー供給者の運用益は、消費者または村に還元するものといたします。

実際は単に小さな再生エネルギー供給者が加わっただけの構成でございます。この構成例は従来技術の組み合わせのみで可能であるばかりでなく、小離島特有のエネルギー課題に向けての解決策にすることができます。

まずCO2排出ゼロ化はもとより、本土に比較して高額なエネルギー費用負担の軽減化、巨大な津波の被災後や、その他の長期停電時等における飲料水の確保、医療、通信機器の機能確保等の防災機能の強靱化、また物流機能の維持、これは実際に電気自動車の普及でございますけれども、物流機能の維持等が可能になります。

結果としまして、小離島におけるエネルギーの自立化、地産地消化を進め、平時、被災時等も含め、安全、安心の村づくりを進めることができます。

一方で電力供給の運用面においては、電力系統への接続制限緩和も含め、既存の電力供給者との電力併用等に関する理解をはじめ、技術協力、技術支援等が必要になります。

また、本提案を進めるためには補助金獲得や運用面も含め、国や電力会社等、関係者の調整が必要になり、村単独での推進は困難であります。小離島の自立体制のために一日も早い実現を望んでおります。

結論といたしまして、都に望むこととなりますけれども、世界のCO2削減目標の達成とともに、今後50年、100年以上に渡り、小離島の島づくりに寄与できる本提案への都の絶大

な支援をお願いしたいと思います。

追加でございますけども、この図の中で無限のエネルギーを与えてくれる微笑みの太陽がここにありますが、この太陽は東京都の小池知事ではないかと思っておりますけれども、皆さんいかがでしょうか。

以上、3件についての要望終わります。ありがとうございました。

○知事 ありがとうございます。いくつか御要望と、それからまさに長期戦略に相応しい最後の話等を伺わせていただきました。

最初、冒頭の樫の今回の倒木ですけれども、樫油は保存ができるんですね。でも今もう倒れちゃっているわけですよね。そこをまた起こすんですか。

○利島村長 いいえ。もうそれは使えませんで、皆撤去しています。

○知事 撤去するんですか。

○利島村長 もう一度新しい木を植え替えることになります。そこにも書いてございますけど、植え替えると30年近く。

○知事 30年掛かる。

○利島村長 はい。非常に成長の遅い木です。

○知事 今回はこの利島村の樫はどれぐらいがやられたと。

○利島村長 大体、今正確には調査中ですけど何千本というオーダーで、恐らく今農協さんで調べてもらっていますけども、全体の1割ぐらいはやられたのではないかという具合に見積もっております。

生産額にしても大体年間1億円前後ですけども、樫の生産量自身が5,000リッターから1万5,000リッターと、結構ふり幅あるんですが販売額が変わったりしますので、直接生産量と販売額は対応はしませんけども、大体平均すると1億円ぐらいですので、その1割2割という、今後何十年にわたって2,000万前後の種がずっとそのまま落ち込んでいる状態になるということでございます。

○知事 以前は蛾の被害で、この時はどれぐらいがやられたんですか？

○利島村長 その時は時間が追って出てまいりますので分からないんですが、たまたま蛾の被害に遭った時には樫の収穫が非常に豊作の年だったため、目立たなかったんですが、それが1年、2年経って、今年あたりは非常に少ないんですけども、そういった少ない年、蛾の影響が直接何割あったかは、はっきりは分かりませんが、今はその対策については環境局さんにいろいろ援助いただいて、一応蛾はない状態にホールドされております。

○知事 御要望も含めて御説明ございました。そのうち、最初の村の焼却施設ですけれども、施設の更新の他に広域処理化等、幅広い観点から検討しておられると伺っております。

現在、施設の更新に向けた計画の策定等の支援を行っているわけですが、今後村の検討状況を踏まえまして、必要な支援を行わせていただきたいと思いますと考えています。

○利島村長 よろしく申し上げます。

○知事 それからゼロエミッションアイランド、ZEIと言っている分を、このコンセプトですけれども、これを現実的に取り組んでおられるということについて、まず敬意を表した

いと思います。

○利島村長 ありがとうございます。

○知事 それから実際に台風 15 号の際も、各地停電の中で太陽光パネルで発電した電気を庁舎内でお使いになったということも伺っております。

○利島村長 非常に助かりました。

○知事 再生可能エネルギーの持続可能量の拡大も考えねばなりませんし、その意味で引き続き国に働き掛けるということと、母島で実証実験等を行っているんですけども、電力会社と島しょ地域での再生エネルギー100%の供給ということでの取組も進めております。

やはり私も以前から島という特性に着目をしながら、そしてまたその燃料を運び込む際のプラスの運搬費等を考えますと、やはりその地産地消でいくということが一番理にかなっているのではないかという点と、それからただ再生可能エネルギーは蓄電がまだ不十分だということですから、課題はまだまだ多いかと思っております。

ただ、これからもそういった長期戦略においては島の持続可能性という観点からエネルギー確保をどのような形で進めていくか、まさしく長期戦略に相応しいテーマでありますし、また今回のような台風で島が停電ということになった時には、別の電源がありますと、それは非常に心強いことなのではないかなと思っております。

それと同時に火力発電が動いているという、何層かの構えで。

○利島村長 併用運転ということですね。

○知事 併用運転ですね。進めていただければと思います。EV 車も、まだ島は中古が多いんだという話を伺っているんですけども、EV 車もこれからまた市場に出てきて、そして中古の市場も出てくるというところから、ぜひこの私どもがモデル的に入れた EV も島によってございますけれども、これからはそちらの方向で進めていければというふうに思っております。

○利島村長 ありがとうございます。

○知事 だから ZEI と ZEV ですね。

○利島村長 これは ZEI 利島/SES と書いたんですけど、これはスモールエナジーサプライヤーという意味で、このシステムはどこでもできる話ですけども、要するに既存のものに対して再生エネルギーを供給する供給者が別につくって、それがまたお金を受け取って村に還元、自分に還元するというシステムを、そこだけの違いが小離島にとっては非常に重要なポイントだということだと思います。知事の言われたそのままでございますけども。

○知事 そういうことで大変貴重な御意見、また必要な御意見を伺わせていただきました。

これからも村の皆様方にどうぞ今回の御見舞いをお伝えいただければというふうに思っています。

○利島村長 ありがとうございます。

○知事 本日はありがとうございました。

○利島村長 どうもありがとうございました。

○行政部長 では意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。